



加美町 協働の景観まちづくりプラン

加美町

※表紙／背表紙

このイラストはこのプランで目指す加美町の姿をイメージしたものです。

はじめに

～加美町らしい景観を守り育てるために～

加美町は、船形山や薬菜山に代表される雄大で美しい山なみ、鳴瀬川と田川がゆったりと流れ、これに続く田園風景があります。こうした自然を背景として先人の営みがあり、地域独自の農村風景や歴史的なまちなみが形成されてきました。

しかし、過疎化及び少子高齢化の進展、生活様式や価値観の多様化などにより、まちの姿が変わりつつあります。私たちは、これまで守り・育てられてきた本町の景観を、今後も後世まで伝え残すことが義務であると考えています。

そこで、本町では、平成24年度から「美しいまちなみづくり100年運動」として、豊かな自然に恵まれた加美町らしい美しいまちなみづくりを中長期的に進めるために、住民主体の持続可能な景観まちづくりの方針と取り組みについて検討し、「加美町協働の景観まちづくりプラン」を策定いたしました。

計画の策定にあたりまして、加美町美しいまちなみづくり検討委員会の委員の皆様をはじめ、オーラルヒストリー調査やワークショップなどで貴重なご意見をいただきました住民の皆様から感謝申し上げます。

これから、住民と行政の協働による景観まちづくりの推進に努めてまいりますのでご理解とご協力をお願いいたします。

平成27年3月



加美町長 猪股 洋文

目次

加美町協働の景観まちづくりプラン策定の主旨 …01	
加美町協働の景観まちづくりプランの構成 ……05	
第1章 加美町を知る ……08	
1-1. 加美町の景観 ……09	
1-2. 加美町の景観の特徴と歴史 ……17	
1-3. 大切にしたい加美町の景観 ……19	
1-4. 加美町の抱える課題 ……31	
第2章 加美町の未来を描こう ……36	
2-1. みんなで描いたまちの未来 ……37	
2-2. 加美町の未来地図 ……41	
2-3. まちづくりの取り組み ……49	
2-4. シナリオ達成後の加美町の姿 ……55	
第3章 シナリオの実現に向けて ……62	
協働の景観まちづくりの流れ ……63	
取り組みのシナリオ集 ……66	

加美町協働の景観まちづくりプラン策定の主旨

■ 加美町協働の景観まちづくりプラン策定の背景と目的

近年、全国的に美しいまちなみなど良好な景観に関する関心が高まっており、平成15年度に「美しい国づくり政策大綱」が策定され、国政上の重要課題に良好な景観の形成が位置づけられました。また、平成16年度には景観に関する総合的な法律である「景観法」が制定され、市町村が地域の特性を活かした良好な景観の形成を積極的に推進していくための環境が整えられました。

宮城県では、県内のより良い景観を守り、創造し、景観形成を支える意識の醸成を図るため、平成10年度に「宮城県景観形成指針」をまとめました。景観法の制定を受け、平成19年度に「新・宮城県景観形成指針」として改訂され、平成21年度には「宮城県美しい景観の形成の推進に関する条例」が制定され、この条例に基づき、平成24年度に「宮城県美しい景観の形成に関する基本的な方針」が定められております。このような背景のもと、各自治体の特徴を生かした良好な景観形成に関する活動が、宮城県内だけでなく全国的にも活発に行われています。

加美町においても、住民が「この町に住んで良かった」と誇れるような町を目指して、豊かな自然に恵まれた加美町らしいまちなみを形成するために、平成24年度から「美しいまちなみづくり100年運動」に取り組んでいます。

「景観」とは、山や川などの自然、建物や道路といったまちなみ、人々の暮らしの様子など、日頃から目にしている対象を表す「景」という文字と、それらを目にした人たちの価値観を表す「観」という文字が組み合わされた言葉です。氷山には、目に見える水面上の部分と目に見えない水面下の部分があり、水面上を水面下が下支えしている様に、「景観」には「目に見える部分＝風景（景色・眺め）」だけでなく、「目に見えない部分＝地域」の両面があり、どちらも大切です。特に目に見えないところで景観を支えている人々の存在や活動が、良好な景観の形成に必要です。

本町では、葉葉山や船形山などの雄大な山々、鳴瀬川や田川などの恵まれた自然環境の中で、独自の歴史、文化が育まれ、脈々と住民の生活が営まれてきました。豊かな自然を活用した農林業が盛んに行われ、また、商店街を中心に人々の交流が生まれました。そして、このように住民が生活し活動を続けることで、加美町固有の景観が形成されてきました。

しかし、これまで続いてきたなりわいや暮らしが途切れてしまうと、農地や里山の荒廃、空き地・空き家の増加など様々な悪影響がひろがり、今ある景観が失われてしまいます。

建物や土地は個人のものであったり、事業者のものであったり、公共のものであったりと様々ですが、豊かな自然はもちろん、それら全体の景観は住民共有の財産です。先人から受け継いだ自然や歴史・文化、またはなりわい等が途切れないように、景観を守り、育みながら後世に引き継がなければなりません。

そのために、住民や地域コミュニティ、行政等が共通の認識を持ち、協働によって加美町らしい景観を守り育てる活動に積極的に取り組んでいくため、加美町が目指す景観まちづくりの方向性や、その目指すべき姿に向けての取り組み等をまとめた「加美町協働の景観まちづくりプラン」を策定するものです。

■他計画等との関係

「加美町協働の景観まちづくりプラン」は、加美町のまちづくりの基本となる総合計画である「加美町笑顔幸福プラン」を上位計画とします。「加美町笑顔幸福プラン」では、本町におけるまちづくりの基本理念を「共生」「協働」「自治」としており、その理念に基づき「善意と資源とお金が循環する、人と自然に優しいまち」を目指すとしています。本計画は総合計画に定める基本理念や施策等と整合を図りながら、地域資源調査や住民等の意見を踏まえて策定するものです。

また、本計画は景観法に基づく「宮城県美しい景観の形成に関する条例」の下で、町が独自に策定するものです。加美町では、景観をより広範な枠組みとして考え、目に見える風景を支えているなりわいや暮らしといった様々な活動を含む幅広い内容で構成されています。なお、本計画の実践にあたっては、総合計画に基づく各種の個別計画と連携を図りながら取り組んでいきます。

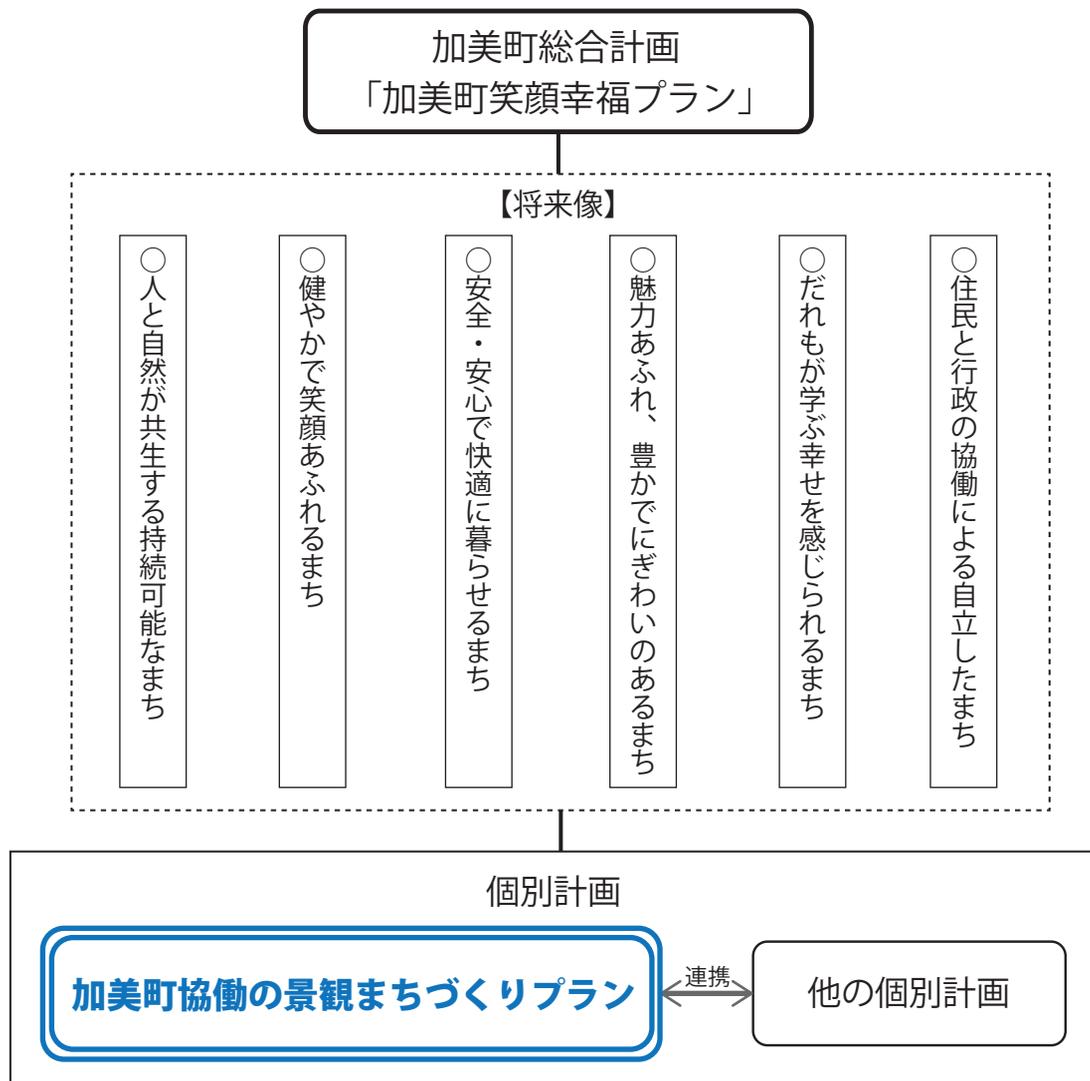


図 加美町協働の景観まちづくりプランの位置づけ

■策定までの流れ

「加美町協働の景観まちづくりプラン」については、地域の資源を活かし、住民と行政の協働による景観まちづくりに取り組めるような内容とするため、3年にわたり早稲田大学の協力を得ながら策定作業を進めました。

検討にあたって、まちづくりオーラルヒストリー調査や景観調査といった地域資源調査、また住民のみなさんの意見を反映させるために、5回にわたるワークショップを実施しました。これらの調査結果をもとに本計画を策定するため、学識経験者や公募による住民等12名で構成される「加美町美しいまちなみづくり検討委員会」を設置し、加美町らしい景観形成について議論を重ね、計画の素案を作成しました。素案は、パブリックコメントと試読会を通じて住民のみなさんの意見を反映し原案として取りまとめ、検討委員会から町長へ提言され、「加美町協働の景観まちづくりプラン」が策定されました。

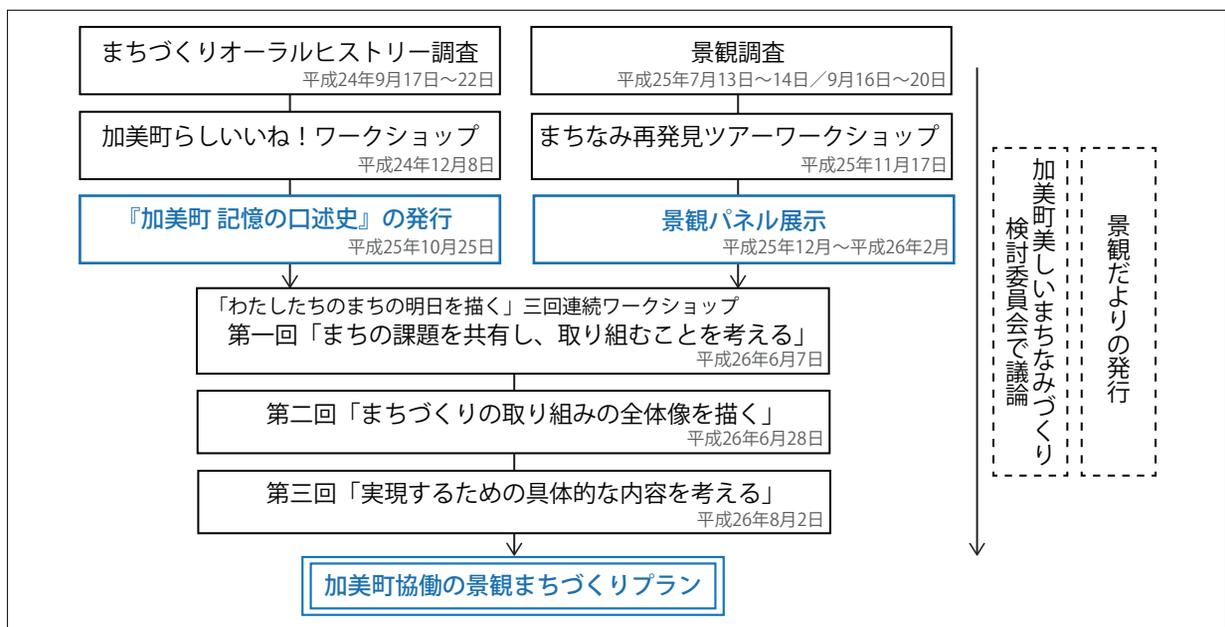


図 加美町協働の景観まちづくりプランの策定までの流れ

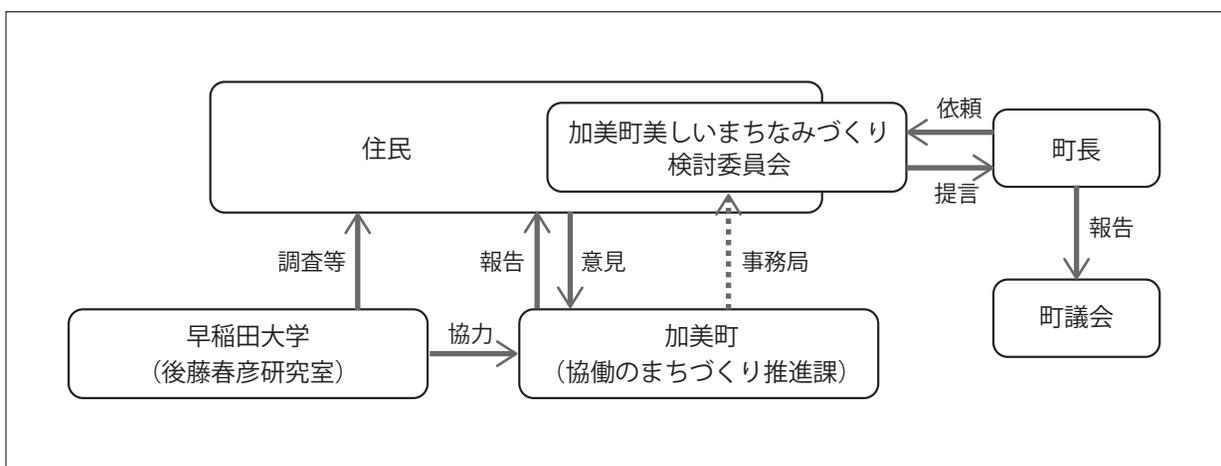


図 加美町協働の景観まちづくりプランの策定体制

第1章 加美町を知る

第2章 加美町の未来を描こう

第3章 シナリオの実現に向けて

取り組みのシナリオ集

加美町協働の景観まちづくりプランの構成

p.8 第1章 加美町を知る

1-3 で記述

風景の資源

- ・特徴的なまちなみ
石畳や蔵・看板建築
- ・商店街の裏と表の関係
- ・まちの名店

- ・空間を広げ、共有する工夫
木戸・庭
- ・居久根とともにある住まい
- ・地域固有のお祭り

- ・薬菜山を望む風景
- ・川を骨格とした風景
鳴瀬川・田川
- ・水がめぐる風景

1-4 で記述

景観の課題

- ・人通りの少ない商店街
- ・シャッター通り
- ・耕作放棄地の増加
- ・伝統的な造りをした建物の減少

- ・管理不足で荒れている道路
- ・危険老朽空き家
- ・暮らしの知恵と技の喪失
- ・若者の姿が見えにくいまち

- ・人の手が加えられない自然
- ・関心が薄れた自然

2-1 で記述

ワークショップ

住民発意の目標

町内の魅力を発信していけるまち
学ぶ意欲のあるまち
地域の中で伝え合うまち

世代を超えてふれあえるまち
にぎわいと人のつながりのあるまち
気楽に立ち寄れる場所のあるまち

自然の中で遊びを教え合うまち

若者が住み続けられるまち

■加美町協働の景観まちづくりプランの構成

「加美町協働の景観まちづくりプラン」は、第1章「加美町を知る」、第2章「加美町の未来を描こう」、第3章「シナリオの実現に向けて」の全三部で構成されています。

第1章は、まちづくりオーラルヒストリー調査や景観調査、ワークショップの結果をもとに、加美町の景観資源や課題等を示すものです。

第2章は、総合計画のまちづくりの基本理念をもとに、資源調査やワークショップの結果を踏まえて作成した「景観まちづくりの基本理念」、ならびに「4つの目標と地域ごとの方針」「取り組みのシナリオ」を示すものです。取り組みのシナリオは、ワークショップに参加していただいた方々が、目標と方針をもとにどのような取り組みができるかアイデアを出して作成したもので、全22のシナリオを体系化して表しています。そして章末に、これらのシナリオが達成されていくことを通してできる加美町の未来のイメージを、「いくつもの加美町」として描きました。

第3章は、加美町の景観を知り、住民と行政等の協働による景観まちづくりをどのように実現していくか、今後の実施体制等について示すものです。

2-2 で記述

景観まちづくりの基本理念と目標・方針

理念：自然と共生し、人々のなりわいと暮しが見える加美町らしい景観

目標1：町内の魅力を発信していくまち

- 方針
- 中新田：観光・交流を通じたにぎわいの創出
 - 小野田：地域で学び、伝え合う環境の促進
 - 宮崎：農業を中心とした新しい価値の創造

目標2：多世代交流に支えられ住み続けられるまち

- 方針
- 中新田：文化・娯楽を通じた交流の促進
 - 小野田：多世代が集う場を通じた交流の促進
 - 宮崎：趣味の活動を通じた交流の促進

目標3：自然の中で遊びを教え合うまち

- 方針
- 中新田：自然の中で学べる環境の促進
 - 小野田：自然の中の遊びや知恵を伝え合う環境の促進
 - 宮崎：子どもを中心とした自然体験の促進

目標4：新たな活力を発揮するまち

- 方針
- 中新田：学生を中心にした地域の情報発信
 - 小野田：町の魅力が循環する仕組みの創出
 - 宮崎：町外の人々との体験交流の促進

2-3 で記述

取り組みのシナリオ

- ・地域資源を活かしたにぎわいの景観
 - ・観光の拠点づくり
 - ・まちのなりわい発信局
 - ・加工体験を通じた食育のすすめ
 - ・里山暮らしPR委員会
 - ・市民農園による宮崎のファンづくり
-
- ・外出を促す休憩処づくり
 - ・蔵を拠点とした食文化の伝承
 - ・まちの名人発掘
 - ・多世代が集う伝承の場づくり
 - ・ペットとともに訪れるまちへ
 - ・地域を巡るにぎわいづくり
 - ・宮崎文化祭
 - ・空き家を活用した芸術家の拠点づくり
 - ・子育て世代の環境づくり
-
- ・自然とのふれあいづくり
 - ・日曜しぜん探検隊
 - ・四季を体験する自然学校
-
- ・高校生が集うお店作り
 - ・学生発のユニークなPR活動
 - ・人や資源が循環する「贈り物トラック」
 - ・学生を呼び込む田舎暮らし体験
- ※シナリオの詳細な内容については巻末「取り組みのシナリオ集」を参照

シナリオ達成後の加美町の姿

新しいまちの魅力を創造・発信する場
 葉菜山を背景に住民の生活を豊かにする交流の場
 自然の魅力を活用し、人と人をつなぎ合わせる場

2-4 で記述

協働の景観まちづくりの流れ



第1章 加美町を知る

1-1 加美町の景観



薬菜山とたんぼ

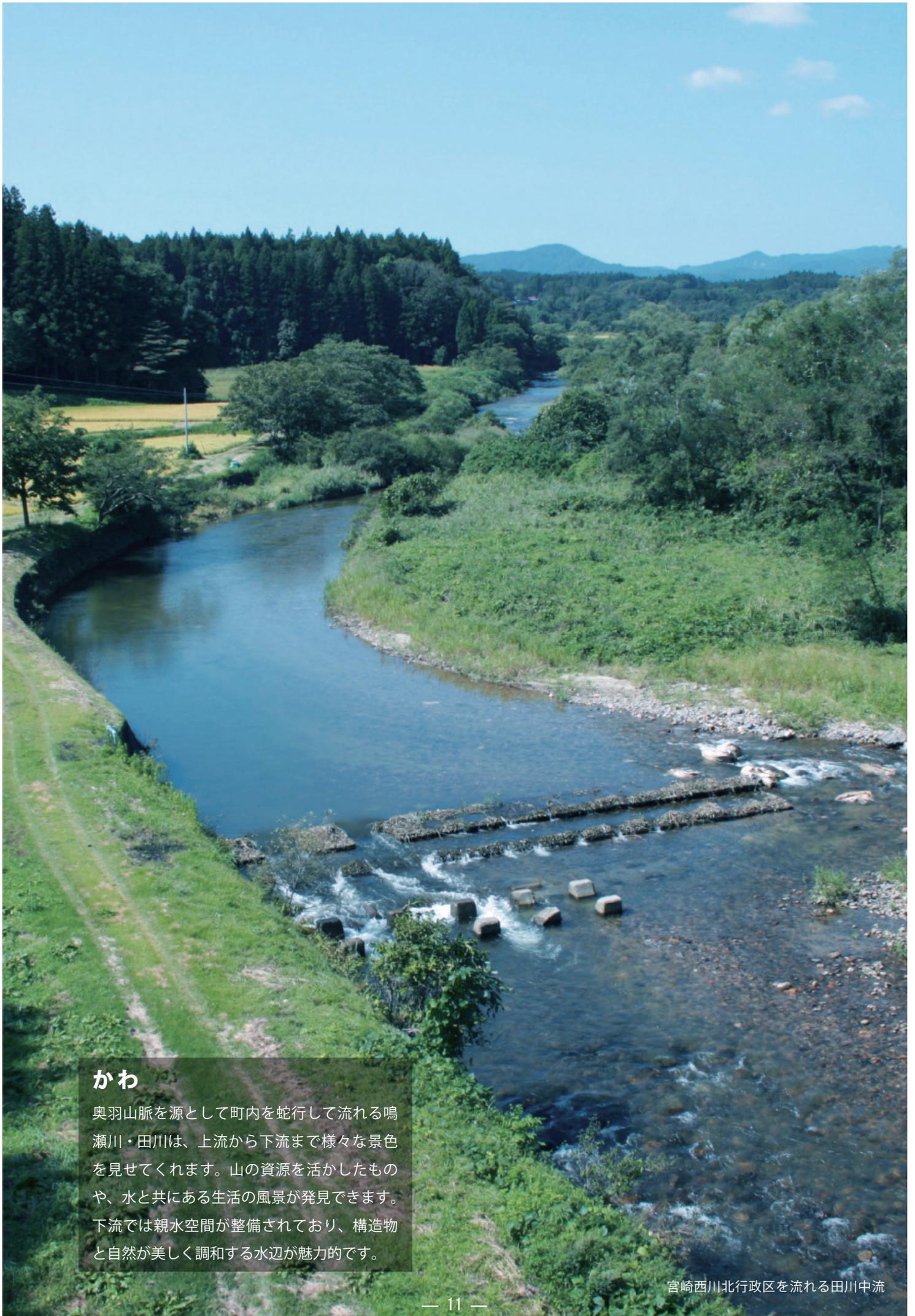
まちの中心に突起するこの山は、山容が富士山に似ていることから「加美富士」の名で親しまれています。平地ではたんぼが四季折々の表情を見せ、加美町ならではの景観を生み出しています。

第1章
加美町を知る

第2章
加美町の未来を描こう

第3章
シナリオの実現に向けて

取り組みのシナリオ集



かわ

奥羽山脈を源として町内を蛇行して流れる鳴瀬川・田川は、上流から下流まで様々な景色を見せてくれます。山の資源を活かしたものや、水と共にある生活の風景が発見できます。下流では親水空間が整備されており、構造物と自然が美しく調和する水辺が魅力的です。

第1章 加美町を知る

第2章 加美町の未来を描こう

第3章 シナリオの実現に向けて

取り組みのシナリオ集

いぐね みどりと居久根

四季の風景が豊かな加美町では、自然の恵みを活かした生活がなされてきました。写真は宮崎・旭地区の居久根の道。居久根は住居の北西に位置し、吹雪や山おろしの風から住まいを包むように守ります。

宮崎南永志田行政区にある居久根の中から



まちなみ

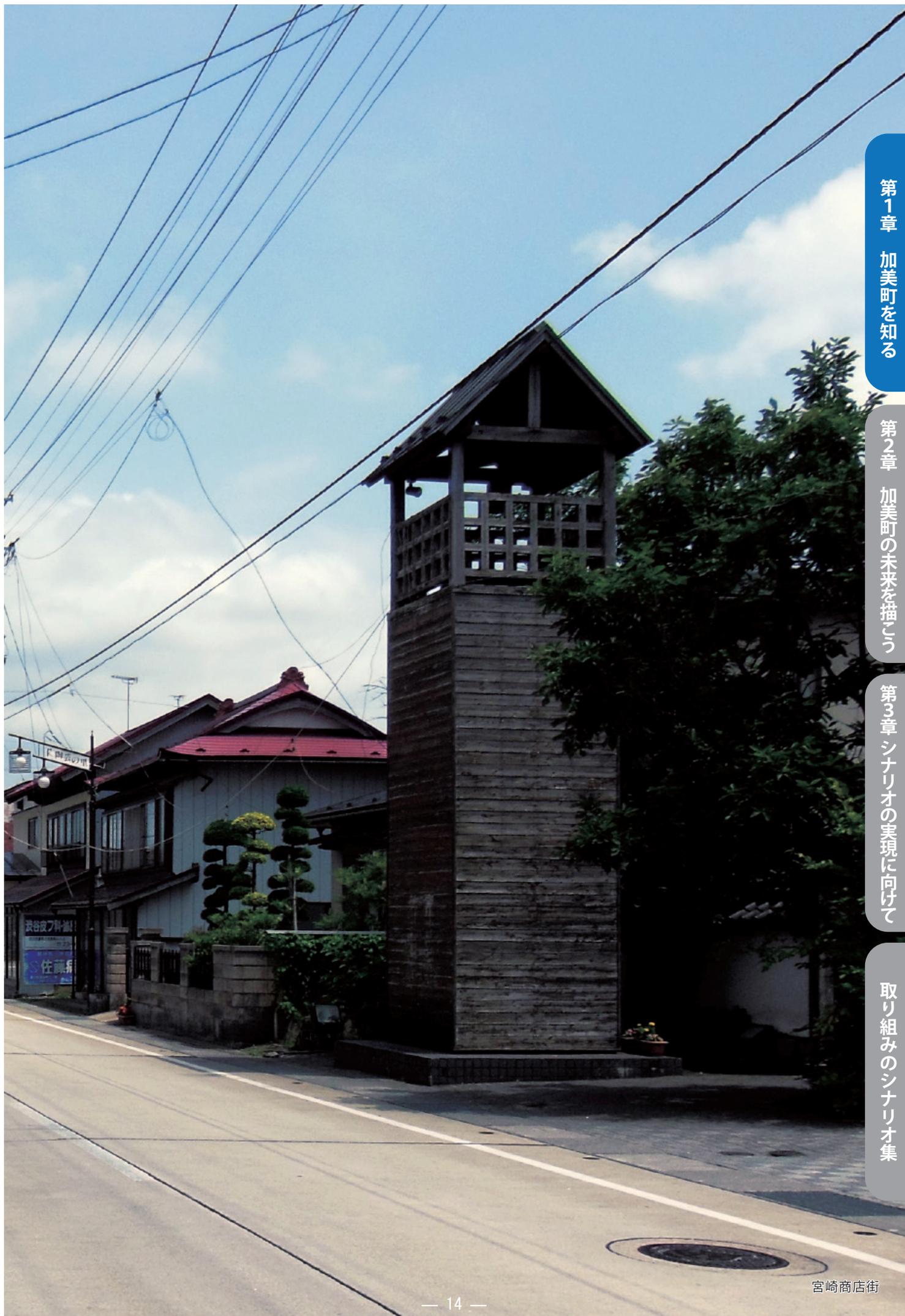
中世より羽後街道、中羽前街道の交わる流通・商業・文化の中心地として栄えた中新田、酪農で栄えた小野田、昭和より鉱山で栄えた宮崎の3地区の商店街には、町家が建ち並ぶまちなみがあります。

第1章 加美町を知る

第2章 加美町の未来を描こう

第3章 シナリオの実現に向けて

取り組みのシナリオ集



にぎわい

加美町には地域に根ざした伝統芸能や地域文化が現在も継承されています。中新田の火伏せの虎舞はそんなお祭りのひとつです。毎年4月29日、遠方からたくさんの方が訪れ、石畳の商店街を人で埋め尽くす風景がみられます。

加美

火伏せ虎

火伏せ虎



第1章 加美町を知る

第2章 加美町の未来を描こう

第3章 シナリオの実現に向けて

取り組みのシナリオ集

1-2 加美町の景観の特徴と歴史

加美町は、宮城県の北西部に位置しています。西には山形県尾花沢市と最上町、北は大崎市鳴子、東は大崎圏域の中心である大崎市古川、南は加美郡色麻町に接しています。西部は奥羽山脈に隔てられ、東部は平坦地が開けています。県内でも有数の面積を有し、森林が74%、農用地が14%を占め、町内は緑があふれる景観となっています。町には「加美富士」とも呼ばれ多くの人々から親しまれている秀峰「薬菜山」がそびえています。中新田の中心部には、奥羽山脈より発する一級河川鳴瀬川と田川が合流し、日本有数の穀倉地帯である大崎耕土を潤しています。

土地利用を見ると、山岳地帯は奥羽山脈の一部として森林に、丘陵地帯の多くは畑地、草地に利用されていますが、薬菜山の周辺部では観光・リゾートの整備も行っています。平坦地は町中心部に市街地が形成されており、周辺は水田に利用されています。

8世紀頃、この地域は陸奥の国府多賀城より出羽国府ないしは秋田城へ向かう要衝の地であったため、兵士や人馬の往来が激しく賑わいを呈していました。中世に至るとこの地域は大崎氏の支配をうけることとなり、旧中新田町は大崎氏が最後の拠点を築いた場所でもあります。

中世以降も、南北の羽後街道（現国道457号）、東西の中羽前街道（現国道347号）の交わる旧中新田町は交通の要衝であり、また有数の穀倉地帯であったため、江戸への水運拠点として繁栄していました。人や物資に集まるといふ宿場町・商業町としての特性に加え、前述した米所であったところから酒造が盛んな地域で

あり、今なお残っている立派な酒蔵から当時の名残を伺い知ることができます。

鳴瀬川や奥羽山脈など豊かな自然に囲まれています、それらが人々の脅威になることも多くありました。鳴瀬川は歴史的に何度も氾濫を起こしており、治水・堤防に関する史実も多くあります。また奥羽山脈からの強風が吹き付ける地域でもあり、中世から現在に至るまで数回の大火に見舞われ、こうした災害からの復興が、伝統行事である「火伏せの虎舞」の起源にもなりました。



第1章 加美町を知る

第2章 加美町の未来を描こう

第3章 シナリオの実現に向けて

取り組みのシナリオ集



加美町
面積=460.82km²
人口=25,227人（平成26年3月末現在）



・本地図の作成においては「国土地理院 数値地図」を使用しております。